

## 巻頭特集：

# 新課程のポイントー教科書はこう変わるー

## I. 外国語科改訂の要点

### 1. 外国語科は必履修教科

今まで外国語は選択科目であり、必修化は検討されてきたものの時期尚早とされていた。このたび国際化の進展への対応が必要であること、外国語の基礎的・実践的なコミュニケーション能力がどの生徒にも必要になってきていることから、必履修教科となった。

### 2. キーワードは「実践的コミュニケーション能力」

外国語科の目標に「情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う」という文言が加えられた。外国語は「実技」であり、コミュニケーションとは定型のあいさつや言い回しを覚えることではなく「意味内容の授受+自己表現」であり、「話す」「聞く」=「伝える」「理解する」であることがより明確に打ち出された。

### 3. 求められる4領域を用いた活動、「言語の使用場面と働き」の設定

上記の実践的コミュニケーション能力の育成には、今まで独立して示されていた「聞く」「話す」「読む」「書く」の4領域を有機的に結びつけた活動がどの科目においても必要である。そこで今回の学習指導要領では「言語の使用場面と働き」（下記一覧参照）が指定された。これらが指定されたのは「コミュニケーションにおいては常に、言語が具体的な場面において、具体的な働きを果たすために使用される」からである。一覧の「言語の使用場面」左欄(ア)～(エ)および「言語の働き」(ア)～(オ)はどの科目でも網羅して扱われる。

#### 〔言語の使用場面の例〕

(ア) 個人的なコミュニケーションの場面	電話、旅行、買い物、パーティー、家庭、学校、レストラン、病院、インタビュー、手紙、電子メール など
(イ) グループにおけるコミュニケーションの場面	レシテーション、スピーチ、プレゼンテーション、ロール・プレイ、ディスカッション、ディベート など
(ウ) 多くの人を対象にしたコミュニケーションの場面	本、新聞、雑誌、広告、ポスター、ラジオ、テレビ、映画、情報通信ネットワーク など
(エ) 創作的なコミュニケーションの場面	朗読、スキット、劇、校内放送の番組、ビデオ、作文 など

## [言語の働きの例]

(ア) 人との関係を円滑にする	呼び掛ける, あいさつする, 紹介する, 相づちを打つ など
(イ) 気持ちを伝える	感謝する, 歓迎する, 祝う, ほめる, 満足する, 喜ぶ, 驚く, 同情する, 苦情を言う, 非難する, 謝る, 後悔する, 落胆する, 嘆く, 怒る など
(ウ) 情報を伝える	説明する, 報告する, 描写する, 理由を述べる など
(エ) 考えや意図を伝える	申し出る, 約束する, 主張する, 賛成する, 反対する, 説得する, 承諾する, 拒否する, 推論する, 仮定する, 結論づける など
(オ) 相手の行動を促す	質問する, 依頼する, 招待する, 誘う, 許可する, 助言する, 示唆する, 命令する, 禁止する など

## 4. 言語材料の精選

## ① 語

特に大きな改訂点は, 中学での「指導要領に示された語」が507語から100語に絞り込まれ, 総数が100語減った点である. 以下の表では旧課程で指導要領に示されていた507語を示し, そのうち新課程で残った語を○で囲んだ.

a	about	across	after	afternoon	again	ago
all	already	also	always	am	among	an
and	animal	another	answer	any	anyone	anything
April	are	arrive	as	ask	at	August
aunt	away	back	bad	be	beautiful	because
become	before	begin	between	big	bird	black
blue	boat	book	both	box	boy	bread
break	breakfast	bring	brother	build	building	bus
busy	but	buy	by	call	can	car
card	carry	catch	chair	child	city	class
clean	close	cloud	club	cold	college	colo(u)r
could	come	cook	cool	country	cry	cup
cut	dark	daughter	day	dear	December	desk
dictionary	different	dinner	do	does	door	down
draw	drink	drive	during	each	ear	early
easy	eat	eight	eighteen	eighth	eighty	either
eleven	eleventh	English	enjoy	enough	evening	ever
every	everyone	everything	eye	excuse	face	fall
family	famous	far	farm	fast	father	February
feel	few	fifteen	fifth	fifty	find	fine
finish	first	fish	five	flower	fly	food
foot	for	forget	forty	four	fourteen	fourth
Friday	friend	from	fruit	game	garden	get
girl	give	glad	glass	go	good	goodby(e)

great	green	ground	grow	hair	half	hand
happy	hard	(has)	(have)	(he)	head	hear
help	(her)	here	(hers)	high	hill	(him)
(his)	holiday	home	hope	hot	hour	house
(how)	hundred	(I)	(if)	idea	important	(in)
interesting	(into)	introduce	invite	(is)	(it)	January
Japan	Japanese	July	June	just	keep	kind
kitchen	know	lake	language	large	last	late
learn	leave	left	lend	let	letter	library
life	light	like	listen	little	live	long
look	lose	love	lunch	make	man	many
March	May	(may)	(me)	mean	meet	milk
(mine)	minute	Monday	money	month	moon	more
morning	most	mother	mountain	mouth	much	music
(must)	(my)	name	(near)	need	never	new
news	next	nice	night	nine	nineteen	ninety
ninth	no	(nothing)	noon	nose	not	notebook
November	now	October	(of)	(off)	often	old
(on)	once	(one)	only	open	(or)	(other)
(our)	(ours)	out	(over)	paper	park	pen
pencil	people	picture	plane	play	please	poor
popular	pretty	put	question	quickly	rain	read
ready	really	remember	red	rice	rich	ride
right	rise	river	room	run	sad	same
Saturday	say	school	sea	season	second	see
sell	send	September	seven	seventeen	seventh	seventy
(shall)	(she)	shop	short	(should)	shout	show
sick	(since)	sing	sister	sit	six	sixteen
sixth	sixty	sky	sleep	slowly	small	smile
snow	(so)	some	(someone)	(something)	sometimes	son
soon	sorry	speak	spend	sport	spring	stand
star	start	station	stay	still	stop	store
story	street	strong	student	study	such	summer
sun	sure	Sunday	swim	table	take	talk
tall	teach	teacher	tell	ten	tenth	(than)
thank	(that)	(the)	(their)	(them)	(then)	there
(these)	(they)	think	third	thirteen	thirty	(this)
(those)	thousand	three	(through)	Thursday	time	(to)
today	together	tomorrow	too	town	tree	try
Tuesday	turn	twelfth	twelve	twenty	two	uncle
(under)	understand	(until (又は till))	(up)	(us)	use	useful
usually	vacation	very	village	visit	wait	walk
wall	want	warm	wash	watch	water	way
(we)	Wednesday	week	welcome	well	(what)	(when)
(where)	(which)	white	(who)	(whose)	(why)	(will)

wind	window	winter	with	without	woman	wonderful
word	work	world	worry	would	write	wrong
yard	year	yellow	yes	yesterday	yet	you
young	your	yours				

また、ライティングの語数が英語Ⅱの範囲から英語Ⅰの範囲となったため700語減った。

	現行課程	新課程
中学校	(指導要領の507語含む) 1,000語程度	(同100語含む) 900語程度
英語Ⅰ	中学校 + 500 = 1,500語程度	中学校 + 400 = 1,300語程度
英語Ⅱ	英語Ⅰ + 500 = 2,000語程度	英語Ⅰ + 500 = 1,800語程度
OC	OC A, B, C 共に 中学校 + 500 = 1,500語程度	OCI = 英語Ⅰ = 1,300語程度 OCII = 英語Ⅱ = 1,800語程度
リーディング	英語Ⅰ + 900 = 2,400語程度	英語Ⅰ + 900 = 2,200語程度
ライティング	英語Ⅱの範囲 = 2,000語程度	英語Ⅰの範囲 = 1,300語程度

## ② 言語材料

以下の文型、文法事項が中学校においては「理解の段階にとどめる」ことになったため、高校では「表現の段階に高める」等の指導が必要となる。

- 主語 + 動詞 + 目的語の文型のうち、目的語が what など で始まる節
  - 主語 + 動詞 + 間接目的語 + 直接目的語の文型のうち、直接目的語が how など + to 不定詞
  - 関係代名詞のうち主格の that, which, who 及び目的格の that, which の制限的用法の基本的なもの
- また、
- 受け身については「受け身の形のうち未来形」が「助動詞 + 受け身のもの」となった。

\*なお、筆記体は中学校では「指導することもできる」という扱いとなったため、高校では筆記体を学習していない生徒がいる可能性がある。

## 5. 言語材料の説明はあくまで補助

今回の学習指導要領には、文型や文法事項の指導は補助的位置づけであり、主眼であるコミュニケーション活動を効果的に行うために必要に応じて行うべきものであることが明記されている。

## Ⅱ. 英語改訂の要点

### 1. 科目編成

現行課程		新課程	
オーラル・コミュニケーション A	2	オーラル・コミュニケーションⅠ	2
オーラル・コミュニケーション B	2	オーラル・コミュニケーションⅡ	4
オーラル・コミュニケーション C	2		
英語Ⅰ	4	英語Ⅰ	3
英語Ⅱ	4	英語Ⅱ	4
リーディング	4	リーディング	4
ライティング	4	ライティング	4

### 科目・単位数の変更点

「オーラル・コミュニケーションA」「オーラル・コミュニケーションB」「オーラル・コミュニケーションC」が「オーラル・コミュニケーションⅠ」「オーラル・コミュニケーションⅡ」となり、「オーラル・コミュニケーションⅡ」は4単位になる。また、英語Ⅰが3単位になる。

「オーラル・コミュニケーションⅠ」は（「C」の要素も含むが）おおよそ「A」＋「B」。「オーラル・コミュニケーションⅡ」はおおよそ「C」にあたる

「オーラル・コミュニケーションⅠ」「英語Ⅰ」では中高の連携が重視されている

### 履修形態

「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語Ⅰ」のうちいずれか一方を必修とする。「オーラル・コミュニケーションⅡ」は「オーラル・コミュニケーションⅠ」を、「英語Ⅱ」は「英語Ⅰ」の後に履修する。「リーディング」「ライティング」は原則として「オーラル・コミュニケーションⅠ」「英語Ⅰ」のいずれかの後に履修する。

## 2. 各科目のねらい

### ① オーラル・コミュニケーションⅠ

中学校の学習を踏まえつつ、日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

### ② オーラル・コミュニケーションⅡ

幅広い話題について、情報や考えなどを整理して英語で発表したり、話し合ったりする能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

### ③ 英語Ⅰ

中学校の学習事項の一層の習熟を図りながら、日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

### ④ 英語Ⅱ

幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

### ⑤ リーディング

英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

- ・4領域にわたるコミュニケーション活動が必要。

- ・リーディング・スキルを具体的に指導する。

### ⑥ ライティング

情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

- ・4領域にわたるコミュニケーション活動が必要。

\*なお、指導要領上では英語以外の外国語は敢えて示さず、多様な外国語の柔軟な開設を促している。